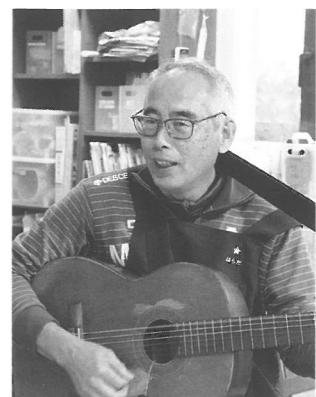


# 私に 人生と 言えるものが あるなら



原田文孝

はらだ ふみたか／1956年岡山県生まれ。兵庫県加古川市で肢体不自由養護学校に31年勤める。教員退職後も障害福祉の職場で障害のある私の息子は、小さい頃「ぼく好き?」「ぼくえらい?」とよく言つていました。「ぼく好き?」という問いは、「無条件に愛してほしい、人として尊重してほしい」という人権要求の言葉であり、「ぼくえらい?」は自分の頑張りを認めたいという人権要求の言葉であつた。仕事が終り退社する時に「おつかれさん」という言葉をかけ合うのでしょうか。この「おつかれさん」という言葉には、一日仕事を頑張れたこと、そしてほんとうに感謝していました。

前回、佐藤さん（仮名）が他者のかかわりが不安で、自分の手を噛んで激しく怒るようになつていつた背景を考えました。①「愛してほしい」という愛情要求の表れ、②「されていることをわかったい」という能力要求の表れ、③「一人の人間として尊重してほしい」という能力要求の表れ、その要求に応える生活指導の実践をお話しました。

この能力要求と人権要求が基本的な人間の要求であると、若いころ神戸大学の斎藤浩志さんから学びました。知的障害のある私の息子は、小さい頃「ぼく好き?」「ぼくえらい?」とよく言つていました。「ぼく好き?」という問いは、「無条件に愛してほしい、人として尊重してほしい」という人権要求の言葉であり、「ぼくえらい?」は自分の頑張りを認めたいという人権要求の言葉であつた。私はこの頃を拭くことや髭を剃ることを朝の「洗面、みだしなみ」の文化としてとらえ、佐藤さんに届ける授業を考えました。授業「男前になろう」です。授業づくりの視点を次のように考えました。

①前回お話ししたように、佐藤さんは鏡に映っている自分を意識し始めました。発達的に10ヵ月ごろの力の獲得をめざしているとすれば、自分に関心が向いてくるころだと思うのです。よき自分を感じたいというねがいに応えたいと思いました。

すぐに髭を剃るという活動の流れ（ストーリー）があれば、顔を拭くことも髭を剃ることも意味づけやすく、わかりやすいと思うのです。

このように考えて、①活動の意味（生活文化）がわかり、安心して他者のかかわりを受けとめられる、②気持ちよさ、かっこよさに気づき、よき自分を感じられる、という2つの目標を立てました。

## 佐藤さんの孤独と闘い

私は、その頃、佐藤さんが他者とのかかわりが不安で、人間不信に陥っていることから、漠然と佐藤さんは孤独ではないかと思つていました。佐藤さんのペッドには何も置いてありませんでした。異食すると思われていたのです。何もなく何もすることがない佐藤さんは孤独な時間を過ごしていると思っていたのです。しかし、今改めてこの佐藤さんの孤独を考えると、「一人の人間として尊重してほしい」という人権要求とつながりがあつたのではないかと思えるようになりました。

佐藤さんは、この髭剃りの意味もわからぬし、顔を動かして髭を剃つています。電気カミソリで髭を剃るのですが、職員さんは佐藤さんの顔を固定し電気カミソリを動かして髭を剃つています。佐藤さんは、この髭剃りの意味もわからぬし、顔を動かないように固定されることが嫌なのです。私でも意味もわからず、顔を押さえつけられて、「ブーン」と音のしている振動する機械を顔に押し

わざりが不安で、自分の手を噛んで激しく怒るようになつていつた背景を考えました。①「愛してほしい」という愛情要求の表れ、②「されていることをわかったい」という能力要求の表れ、③「一人の人間として尊重してほしい」という能力要求の表れ、その要求に応えた。治安維持法違反の嫌疑で逮捕され、敗戦後も釈放されず獄死した哲学者の三木清は、「孤独について」（『わが人生観

## 第2回 一日は人生を刻むもっとも大切な時の単位